

■岩井沢の三匹獅子舞
7年ぶりに子どもが舞う

想いをつむぎ、つなぐ

糸を紡ぐように伝統をつないでいる、地域文化・民俗芸能の担い手たち。
岩井沢の三匹獅子舞の復活を紹介しながら、伝統の継承について考えます。



7年ぶりに子どもが舞う

都

路町岩井沢に鎮座する天日鷲神社の秋季例大祭当日、10月29日。あいにくの雨のため、岩井沢の三匹獅子舞の奉納場所は、岩井沢体育館に変更されました。体育館内に御輿を置き、御輿を神社本殿に見立てました。

それでも、7年ぶりに子どもたちが舞う三匹獅子を見ようと、地元の人々は体育館に集まりました。その中には、雨の中、傘をさして歩いてきた年配の方もいました。

一方、岩井沢三匹獅子舞保存会の方たちは、来場者を温かく迎えながらも、獅子役の子どもの世話、お囃子の練習に余念がありません。奉納の時間が迫るにつれて、子どもたちの表情にも緊張が見えるようになりました。

午後0時30分、お囃子の太鼓と笛が体育館内に鳴り響くと、3匹の獅子が御輿の前に進みました。



神社本殿に見立てた御輿

1 時間後、舞の奉納が終わり、来場者から温かい拍手が捧げられます。記念撮影の後、子どもたちは獅子頭を脱ぐと、息を整えながら安堵の表情を浮かべていました。

来場者を前に、保存会の松本作寿会長が、来場に対するお礼を述べた後、言葉を続けました。

「地域の復興を進めるためにも、子どもたちの三匹獅子舞を復活させたかった。地元のために、この獅子舞を何とか継続し、次の世代に受け継いでいきたい。今後とも地域の皆さんのご支援、ご協力をお願いします。」